



教員紹介

リハビリテーション学部

藤田 高史 FUJITA Takashi

職位	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科博士課程修了
職歴	ヤマザキマザック株式会社, ヨナハ総合病院, 平成医療専門学院を経て, 現職
学位	保健学博士
資格 (免許)、認定	作業療法士 (認定作業療法士) / 住環境コーディネーター2級 / AMPS 認定評価者
担当科目 (学部)	高次脳機能障害学 / 日常生活活動学 / 日常生活環境学 / 作業療法総合技術演習
担当科目 (大学院)	認知障害学特論 / 日常生活環境学特論 / リハビリテーション支援学演習 II
学生へのメッセージ	大学では、脳損傷による認知が低下した方へのリハビリテーションと日常生活活動全般への支援法や介助方法について講義しています。大学院希望者の中で高次脳機能障害 (認知症を含む) の評価と支援に興味のある方、歓迎します。
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウェブ会議システムを利用した居宅認知症患者用, 記憶代償ツール開発 2. 軽度アルツハイマー病者の IADL に影響する因子 3. 高齢者の自動車安全運転寿命向上の試み
研究分野キーワード	日常生活活動 / 認知症 / 介護予防 / 高次脳機能障害
URL	
著書	
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 藤田高史, 酒井晴香, 筒井歩空: 女性高齢者と MCI 者に対する携帯電話とスマートフォンの使用状況調査 - A 市の認知症予防活動参加者を対象に -, 日本認知症予防学会誌 (印刷中), 2021. 2) Takashi Fujita, Kiyohito Kato, Masako Notoya: The effectiveness of diverse technology based instructions in assisting people with Alzheimer's disease with medication management. Disability and Rehabilitation: Assistive Technology Apr 23:1-9.2019. 3) 藤田高史, 和田しず香, 渡邊和子: 養護老人ホーム入所高齢者に対する歌唱とパーキンソンダンス効果の検討 - バランス能力, 精神機能, 認知機能, 前頭葉機能に着目して - 日本健康レクリエーション研究 15 : 27-37.2019.

- 4) Ken Nakatani, Shusuke Takahashi, Daisuke Kimura, Masako Notoya, Nobuyuki Sunahara, **Takashi Fujita**, Minoru Toyama, Shinya Fukunaga, Naoe Mori, Kiyoe Sakai, Shinya Fuwa: Head position of patients with right hemisphere damage during a visual search task in a large field. World Journal of Neuroscience: 190-202.2018.
- 5) **Takashi Fujita**, Masako Notoya, Nobuyuki Sunahara, Ken Nakatani, Daisuke Kimura: Risk Factors for Impaired Instrumental Activities of Daily Living in Alzheimer's Disease. Asian Journal of Occupational Therapy 14: 9-16, 2018.
- 6) **藤田高史**, 古川詩織: 作業療法・理学療法養成校の大学1年生における欠席・遅刻に影響する要因の検討, 作業療法教育研究 17 (2) : 34 - 42. 2018.
- 7) Makana Tsutsui, Masako Nitoya, Daisuke Kimura, Ken Nakatani, **Takashi Fujita**, Nobuyuki Sunahara, Katsumi Inoue: Utility of Tracing as a Memory Storage Method. World Journal Neuroscience :216-222, 2017.
- 8) 木村大介, 中谷謙, **藤田高史**, 今井あい子, 能登谷晶子: 回復期リハビリテーション病棟入院患者のADLに与える神経心理学的側面を中心とした因子について共分散構造分析を用いた包括的分析. 日本作業療法研究学会雑誌 20: 7-14, 2017.
- 9) 木村大介, 竹田徳則, **藤田高史**, 砂原伸行, 中谷謙, 井上克己, 今井あい子, 能登谷晶子: 介護予防事業に参加する地域在住高齢者における双方向の因果関係が想定される認知機能と抑うつ状態に関する検討. 作業療法 36 : 342-348, 2017.
- 10) **Takashi Fujita**, Masako Notoya, Nobuyuki Sunahara, Ken Nakatani, Kiyohito Kato, Takashi Nagai, Katsumi Inoue: Cognitive dysfunction affecting IADL in patients with Alzheimer's disease: A comparative study using the At-the-Desk test. Journal of Tsuruma Health Society 40:45-55, 2016.

ほか 15 件

学会発表

- 1) **Takashi Fujita**, Masako Notoya : The Effects of Support for Medication Adherence Using Smartphones in Alzheimer's Patients Using Skype, 2020 INS Mid-Year Meeting & GNPÖ Vienna Meeting (2020.7, Austria Vienna)
- 2) **藤田高史**, 能登谷晶子: アルツハイマー型認知症者2名に記憶支援機器「あらた」を用いた服薬支援効果について、第53回日本作業療法学会(2019.9、福岡)
- 3) **藤田高史**, 能登谷晶子, 加藤清人: アルツハイマー病者にスマートフォンを利用した服薬支援の効果について - Skype TV 電話機能を用いて -、第52回日本作業療法学会 (2018.9、名古屋)
- 4) **藤田高史**, 能登谷晶子, 加藤清人, 木村大介: アルツハイマー病者に記憶補助ツールを用いた場合の服薬管理効果～「あらた」を用いた予備的研究～、第51回日本作業療法学会 (2017.9.22、東京)

5) 中村省吾、藤田高史：摂食・嚥下リハビリテーションに対する星城大学作業療法学生の興味・関心の調査、第16回東海北陸作業療法学会(2016.11.27、金沢)

6) 藤田高史、加藤清人、砂原伸之、能登谷晶子：軽度認知障害者とアルツハイマー病者に対する指示様式を変えた場合の行動表出向上効果について -第2報-、第39回日本高次脳機能障害学会学術総会(2015.12.10、東京)

7) Takashi Fujita, Masako Notoya, Daisuke Kimura: Factors influencing instrumental activities of daily living in patients with mild-stage Alzheimer's disease, 5th Pacific Conference incorporating the INS' Mid-Year Meeting and ASSBI's 38th Annual Brain Impairment Conference (2015.7. Australia, Sydney)

8) Takashi Fujita, Naoki Tomiyama, Mai Furusawa, The living conditions of City A's preventive care class participants, 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, in collaboration with the 48th Japanese Occupational Therapy Congress and Expo (2014.6. Yokohama)

9) Takashi Fujita, Masako Notoya, Nobuyuki Snahara, Ken Nakatani, Daisuke Kimura, Differences in behavioral disorders in patients with Alzheimer's disease determined and Mild cognitive impairment using the at-the-desk instrumental activities of daily living (IADL) test, International Neuropsychological Society 2013 Mid-Year Meeting (2013.6. Netherlands Amsterdam)

ほか 29 件

【公開講座】

1) 認知症になったら、どんなことができなくなるの？どのように支援したらよいの？、知多市・認知症連続講座(知多市)、2017.

2) 親子で つくろう！ お箸を使いやすくする自助具、星城大学親子講座(東海市)、2016.

3) 生活スタイルで認知症は予防できる？～現在の取り組みとこれからの課題～星城大学公開講座(2011. 東海市文化センター)

4) 脳卒中の方を対象とした介護方法と福祉用具選定のポイント(2008.12. 星城大学)

ほか 5 件

【講演】

1) 失行症の症状分類とその評価～最近の傾向～、岐阜県作業療法士会研修会(養老町)、2019.

2) 星城大学における居宅高齢者への認知症予防と転倒予防活動の効果と課題について、岐阜県作業療法士会研修会(岐阜市)、2016.

3) 軽度認知障害者とアルツハイマー病者の遂行機能障害について - 日常生活活

社会的活動
(公開講座・講演・
国際交流など)

動能力への影響について考える - , 第9回東海北陸作業療法学会(富山市), 2013.

【外部資金獲得状況】

- 1) 科学研究補助金基盤研究 C、ウェブ会議システムを利用した居宅認知症者用記憶代償ツール開発のための予備研究 (平成 25-27 年度)
- 2) 科学研究補助金基盤研究 C、ウェブ会議システムと記憶補助機器を用いた居宅認知症者に対する服薬管理手段の開発 (平成 28-31 年度)
- 3) 地域づくりに基づく新しい総合事業のための専門職と非専門職の効果的な連携のあり方に関する研究 (令和元年)

【東海市介護予防教室・講師】

- 1) 平成 18-25 年度 いきいき元気教室 (認知症・閉じこもり予防教室) ・講師.7 回前後/年
- 2) 平成 22-25 年度 脳の健康教室 (認知症予防教室) ・講師.5 回前後/年

【受託事業】

- 1) 東海市地域支えあい体制づくり事業・星城大学プロジェクトリーダー (平成 23-29 年度)
- 2) 東海市大学連携まちづくり推進事業「高齢者の自動車運転技能の維持・向上プログラムの開発」事業代表 (平成 30-令和 2 年度)

その他